



在宅での心不全管理
 明けましておめでと
 うございます。

さて、2025年は団
 塊の世代が後期高齢者に
 突入、認知症や心不全患
 者数も急激に増える時代
 になります。

先日、榊原記念病院か
 ら「認知症を抱えた難治
 性心不全の患者さんが在
 食へたくなつた」などと



松原 清二 医師
 在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長
 総合内科専門医・循環器内科医
 ・日本循環器学会専門医
 ・日本内科学会認定医
 ・認知症専門医
 ・認知症サポート医

宅で1年間過ごせたこと
 について話してもらえな
 いか」と声を掛けられ、
 事例検討会という形で参
 加させてもらいました。
 入院中にせん妄が強くな
 り、家で見ていけるの
 だろうか。まして難治性
 の心不全もあるし……と
 いう認知症を抱えた難治
 性心不全患者さんが当院
 に紹介された事例です。
 自宅では患者さんは「パ
 ン屋で好きなクリーム
 パンを見て、焼きたての
 パンの香りを嗅いだら、
 食べたくなつた」などと
 おっしゃったので、それ
 を目標にリハビリをし
 て、実際に食べることに
 でき、「おいしかったよ」と
 満面の笑みを浮かべて
 いました。

しかし時を経るにつれ
 心不全が悪化して、息切
 れが出るようになり、ま
 た今までできていた人工
 呼吸器のマスクの装着も
 手順が分からなくなるな
 られる治療選択肢の提示
 や方針決定をするべきだ
 ん管理に関わっていくこ
 とも同様に必要と改めて
 感じました。

このケースを例に、検
 討会では、在宅でも治療
 することが大切である
 ことや、患者さんやご家
 族との話し合いを繰り返
 し、本人たちが受け入れ
 られる治療選択肢の提示
 や医療機器も必要です
 が、在宅では制度上の問
 題も理解しながら患者さ
 ん管理に必要と改めて
 感じました。

で、ご自宅で強心剤の持続
 点滴を行ったところ、息
 切れや認知機能の改善が
 見られました。

ただ残念ながら、在宅
 の治療そのものはご本
 人・ご家族ともに負担が
 大きかったよつで、結局、
 再び入院を頂くことにな
 りました。

【まつばらホームクリニック】
 ☎ **042-439-1250**
 matsubarahomeclinic@gmail.com
 西東京市東町 4-14-18-2F
 ■電話対応：午前 9:00～午後 6:00
 ■定休日：土日（祝日は診療）
 ■訪問地域：西東京市、東久留米・
 新座・練馬の一部
 [まつばらホームクリニック] 検索